

テーマ名 鍋料理の材料の販売数量の AI 予測モデル開発

担当者 代表 C系 藪木登、E系 前原健二、C系 房冠深
(協力 株式会社マルイ 辻路也)

受入可能人数 5名～10名

実施予定場所 総合情報センター情報演習室B他

実施内容

実際の企業（マルイ）が提供する鍋商材の販売数量データをもとに気温との相関から、AI 需要予測モデルを作成する。作成したモデルを製品として販売することを想定し、経営陣に対して導入提案をする。

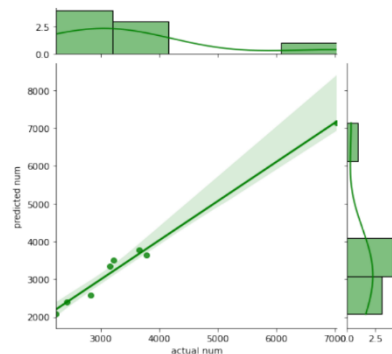
演習計画

- (1) PBL 型 e-learning 教材で python 言語を利用した AI モデル作成の流れを学ぶ。
- (2) 企業（マルイ）への課題のヒアリングを実施（AI 導入したい課題を特定）
- (3) AI 導入により解決したいことの実証実験を計画し要件定義。
- (4) 中間報告（マルイ社員に対して要件定義内容のプレゼンテーション）
- (5) 要件に基づいて AI モデルを作成し実データと比較して性能を評価
- (6) 企業（マルイ）経営陣に対してプレゼンテーションを行う。
- (7) 校内でまとめと発表を行う。

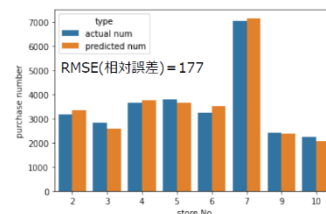
学べる事

- ・ python のプログラミングスキル
- ・ AI モデル作成の技能（モデル性能評価の方法、実データの取り扱い）
- ・ プレゼンテーション能力

“しめじ”の11月の売上個数を店舗ごとに予測



回帰曲線 $y = -122 + 1.0x$
(R2: 0.97, 相関係数: 0.99)



【結果】
← 実測値（横軸）と予測値（縦軸）との間に強い相関がある。店ごとの相対誤差も177個ほどのバラつきに留まる。